

週刊

ケイザイ 防長

information of economy

昭和56年10月17日 第三種郵便物認可
[毎週木曜日発行]
購読料：1年間60,000円（本体価格）
掲載記事二次転載不可



県内の産業界をサポートする経済情報誌

2018

5/24

- **さわやかインタビュー 阿野(公財)やまぐち産業振興財団副理事長**

県産業技術センター内の医療関連推進チームの成果と課題

- **6月に新社長就任 有能な人材確保と業務効率化推進 井上商店**

山口県旧県庁舎

企業情報無料提供サービス実施中

弊誌購読会員様向けに電話での問い合わせに対し弊社グループが調査・取材した企業データを無料提供しています。リスク管理や営業開拓の指針としてお役立て下さい。問い合わせは弊社の本・支社担当宛てに連絡下さい。

有限会社 防長情報センター TEL 083-234-4011

経済

電気料金収入の増加から增收増益 中電平成29年度連結決算

地域経済

下松市内に新工場建設 (株)スミヨシ
自動車用部材、屋外資材にも応用活用 (株)サンラインの新技術
地中熱システム導入「エコスクール」見学会(株)ジオパワーシステム

トピックス

(株)中冷山口、(株)はつもみぢ、富士機工(株)、(株)光洋金属防蝕

信用ニュース

(株)DreamCatch

商業登記・官報抜粋・決算概況・企業アドバイス・企業ダイジェスト・新設法人

電気料金収入の増加から増収増益 平成29年度連結決算

中国電力

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

中国電力は4月末、平成29年度の連結概要決算を公表した。それによると、売上高(営業収益)は販売電力量の減少はあったが、燃料費調整制度の影響による電気料金収入の増加に加え、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の交付金と賦課金が増加したことなどから、1兆3,149億円と、前年度に比べ1,145億円の増収となった。営業費用は経営全般にわたる効率化に努めたものの、燃料価格の上昇による原料費の増加に加

え、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の納付金の増加などにより、1兆2,753億円と前年度に比べ1,094億円の増加となった。

この結果、営業利益は396億円と前年度に比べ51億円の増益となった。支払利息などの営業外損益を加えた経常利益は、307億円となり、前年度に比べ112億円の増益となった。渴水準備金及び原子力発電工事償却準備金を引き当て、法人税などを控除した親会社株主に帰属する当期純

利益では207億円となり、前年度に比べ93億円の増益となつた。なお、当期の配当は、期末配当金を1株につき25円とし、昨年11月支払いの中間配当金と合わせて50円とする予定としている。

平成30年度連結業績予想については、売上高(営業収益)は、販売電力量の減はあるものの、燃料価格の上昇に伴う燃料費調整額の増加に加え、他社販売電力量や「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の賦課金と交付金の増加などから、1兆3,440億円と増収を見込んでいる。利益は原料費など電力需給に係る費用を合理的に予想することが困難であることから未定。今後業績予想が可能になった時点で速やかに知らせるとしている。

地域経済

下松市内に新工場を建設 県内の企業誘致10社目

(株)スミヨシ

鉄道車両の組立や部品製造業の(株)スミヨシ(大阪市鶴見区今津南、立川昌司社長)は4月25日、下松市役所で県立会の下で、下松市と新工場建設の協定を結んだ。同社は今年10件目の企業誘致となる。

新工場は、下松市新川に敷

地面積12,050m²、建築面積は5,121m²。投資額は約14億円。鉄道車両・同部分品の製造を行う。今年5月に着工し、来年5月の操業開始を予定している。現在は下松市内の日立製作所構内に事務所を置き、145人が勤務している。計画

では2023年2月に雇用人数70人を予定している。

同社は昭和45年3月に設立され、鉄道車両の設計・製造・メンテナンス、鉄道車両部品の製造など、多岐にわたる事業を展開している。資本金3,000万円。主要取引先は日立製作所、川崎重工業、近畿車両、日本車両製造、総合車両製作所など。売上高は今年2月期の予想で約76億円。従業員は、今年3月末現在、847人となっている。

大気圧低温プラズマ処理で ナイロン繊維の耐水化、耐薬品化加工技術開発 釣り糸製造の(株)サンライン

釣り糸製造販売の(株)サンライン(岩国市玖珂町、中野郁夫社長)は、東京工業大学発ベンチャー企業である(株)プラズマコンセプト東京と共同で大気圧低温プラズマを使ったナイロン繊維の耐水化・耐薬品化加工技術を開発した。今後は耐水化や耐薬品化を要望されている繊維素材分野での用途拡大が期待されている。

今回の共同開発は、大気圧低温プラズマによる高い活性

力を持つ活性種を生成することで、高速かつ連続処理でナイロン繊維を表面改質し、耐水性や耐薬品性を格段に向上させることに成功。釣り糸製造で培った低温プラズマ処理技術を発展させることで、ナイロン繊維を熱劣化させることなく、耐水性や耐薬品性などの表面特性を持つナイロン繊維の製造が可能となった。

自動車用部材・屋外資材にも

この技術による耐水性向上

処理では、6時間水中に漬けた後の吸水率を従来の約30%に低減することに成功。耐薬品性の向上処理では、ナイロンを溶解するギ酸や濃硫酸に5分間接触させても繊維が溶解しなかった。このため、この技術は「耐水性が要求される屋外資材や、耐薬品性が要求される自動車部材などに、当該処理を施すことで、耐久性向上が期待できるようになった」という。

今後、ナイロン以外のポリビニルアルコール、ポリアセタールなどへの表面改質の応用や、移動体の軽量化による省エネルギー素材として注目されている炭素繊維などへの展開が期待されている。